



第62回神宮式年遷宮 御杣始祭(木曾山中)／平成17年



第62回神宮式年遷宮 御樋代木奉曳式(陸曳)／平成17年

お木曳の木はどこから？

ご造営のために必要な
ご用材は約1万3千本とも

御杣山からご造営用材

五十鈴川の上流のお山は、約5500ヘクタールあるという宮域林です。「神路山」「島路山」といえば身近に感じるかもしれませんが、鎌倉時代までは、この地元の山がご造営用材を伐り出す「御杣山」として定められていました。

御遷宮に必要なご用材は現代では約1万3千本とも言われ、良質の檜を確実に確保する必要があります。どこのお山でもいいというわけではなく、御杣山は厳選され、徹底した管理を行い育てられた木がご用材として使用されるのです。

御杣山は時代とともに移り変わり江戸時代中期からは木曾(岐阜―長野県)が御杣山となり、以後長くご用材のほとんどが木曾から伊勢まで運ばれていました。自動車に取って替わるまでは木曾川の上流部で筏に組まれ、伊勢湾を下って伊勢大湊にやってきました。そして宮川、五十鈴川を上り、神域まで運ぶことが地元の神領民の役目として慣例化され、それが明治以降、実質役目を終えた後も、祭礼行事として現代に続いているのが「お木曳」です。

御杣山が移つても式年遷宮の最初のお祭りである山口祭・木本祭は神宮の宮域林で行われ、最も神聖とされる「心御柱(ご正殿の中心となる部分)」はここから伐り出されます。そして大正時代からは、将来の遷宮を見据えて神宮宮域林でのご用材の自給自足を目標とした「神宮森林経営計画」が策定され200年の檜の育成に取り組んできました。平成25年の御遷宮では約700年ぶりにご用材として一部使用されるまでに育ちました。

■キーワード 御杣山(みそまやま)

杣山とは木材にするための木を植えた山。それに御をつけ式年遷宮の用材を伐りだす山をいう。良材を得るため伊勢志摩～宮川の上流～紀州とだんだん遠くになり、江戸時代中期から木曾山が御杣山と定められた。戦前までは長野県と岐阜県に「神宮備林」とする式年遷宮の用材だけに備える山があったが、戦後この山は国有林となり式年遷宮のための用材を神宮が購入している。

明治天皇と御遷宮

●ごせんぐう千三百年の歴史から

天皇親政となり、皇祖神である神宮の位置づけが大きく動いた明治時代。明治4年には国家による「神宮御改革」が始動しました。それにより伊勢のまちでは、それまでの常識をひっくり返すような「神都計画」が進められました。御遷宮も国家事業となり、政府が管轄することになりました。

第57回神宮式年遷宮(明治42年実施)の準備段階では、政府からご用材の不足などを理由に土台にコンクリートを使う近代的な神社建築を提案されたこともあったとか。しかし、明治天皇はそれをお許しにならず、古代からの姿を留めるこれまで通りのご造営の様式で建国の姿を継承することを諭され、二十年に一度斎行される式年遷宮の意義、大切さを政府関係者に説かれたという逸話が伝えられています。

その後、木曾御料林には、ご用材確保の対策として百年間伐採を行わず保護育成する「永久備林」が設定され、現代の御遷宮まで繋がっています。



神田下種祭 (撮影／令和2年4月)



神田御田植初 (撮影／令和元年5月)



風日祈祭 (撮影／令和元年8月)



抜穂祭 (撮影／令和元年9月)



祈年祭 (撮影／令和2年2月)

稲作とお祭り 五穀豊穣を祈る

神宮では、ご鎮座以来2千年以上の長い間、日本文化の根本といえる稲作に関わるお祭りを、絶やすことなく伝承しています。

例年2月には、その年の豊作を祈る「祈年祭」が行われます。4月には神宮神田でその年のお米作りのはじまりの儀であり、神嘗祭の付属祭典という位置づけの「神田下種祭」。5月には神宮神田の地元の伝

神嘗祭に つながる 神宮のお祭り



続行事である「神田御田植初」があり、そのあと5月と8月には、天候が順調で稔り豊かであるようにと神々に祈る「風日祈祭」が行われます。

9月となり、無事に実った初穂を抜き奉る「抜穂祭」があり、10月、いよいよ大御神様に新穀を奉獻して実りを感じ謝する「神嘗祭」に繋がります。そうして毎年お米づくりが繰り返されて、20年が巡ると「大神嘗祭」ともいわれる神宮式年遷宮となるのです。

神話からはじまる 日本の稲作文化

歴史がはじまって以来、日本人の主食はお米。その起源は、日本のはじまりの神話にみることができます。神様が地上

に降りて国づくりをはじめた天孫降臨のお話では、天照大御神から「三種の神器」とともに「稲穂」が託されたとされています。

それは、地上においてはお米をつくる暮らしが繁栄と平和をもたらすとの教えでした。それから日本はお米を命の糧として国を建て、歴史を重ねながら、どんな時代も神様に豊作を祈り、収穫の感謝を捧げてきました。

さまざまな行事が延期中止になる昨今ですが、春はもうすぐ。今年も日本のお米づくりがはじまります。

そして五穀豊穣を祈る神宮のお祭りは例年と変わりなく行われます。

神宮の 祭事と催事

立皇嗣の礼につき奉告祭

秋篠宮さまが「皇嗣」になられたことを国内外に示す「立皇嗣宣明の儀」が宮中で執り行われた令和2年11月8日(日)、神宮に勅使が遣わされ、「立皇嗣の礼につき奉告祭」が執り行われました。立皇嗣とは、天皇陛下の即位に伴い、皇弟の秋篠宮文仁親王が皇位継承順位第1位、「皇嗣」というお立場に成られたということであり、令和元年の御大札から繋がる公式行事です。

神宮では、神宮の主なお祭りや、皇室の重要な儀式が行われる際などに天皇陛下からの幣帛を奉る儀「奉幣」が行われます。天皇陛下のお使いである勅使が参向、黒田清子神宮祭主以下神職がお祭りを行います。



立皇嗣の礼につき奉告祭の参進(参道を進む神職の列)